



ヨットで四国・九州を一周した

植田 繁 さん 松下速雄 さん
伊藤豊司 さん



PROFILE 写真右から、うえたしげる (60・白羽区)・まつしたはやお (70・白羽区)・いとうとよじ (65・牧之原市)
3人は毎週のようにヨット「OMAEZAKI Ⅲ」で航海に出ている。彼らが所属する御前崎マリンスポーツクラブは、小型船舶および海洋性スポーツやレクリエーション活動の健全な育成を図り、地域の活性化などを目的に平成19年に設立された。

大海原への挑戦

大きな帆で風をつかみ、さっそうと走るヨット。操るのは御前崎マリンスポーツクラブ所属の植田繁さん、松下速雄さん、伊藤豊司さんだ。

3人は今年4月7日から約2カ月をかけて、ヨットで四国・九州を一周した。

「本当は日本一周をしたいと思っているんだけど、なかなかスケジュールが合わなくてね。なんとか2カ月休みがとれたから、九州に行くことにしたんだ」と話す植田さん。

「周りのみんなのサポートがあって行ってこられたんだま」と、10年越しの計画が実現できた感謝と喜びを語る。

航海での体験記を楽しそうに語ってくれる3人の笑顔が印象的だ。

技術を生かし海を堪能

海は一度出ると陸路と違ってすぐに帰って来られない。潮の流れや風を読み、長年の経験と技術で対応していくことが常に危険と隣り合わせの海では必要不可欠だという。

「航海は天候や風に大きく左右されるけど、それも含め

て楽しんでるよ」と松下さんはヨットの魅力を教えてくれた。

海上で船が故障して困っていると、近くを通りかかった船がすぐに「大丈夫か」と声を掛けてくれる。では普段、道端で車が故障したら心配して止まってくれる車がどれだけのだろうか。海上では人のつながりを強く感じられるところも魅力の一つだという。

伊藤さんは「青空の下、風を受けてのセーリングが何よりも気持ちいい。一度体験するとやめられないよ」と海への思いを笑顔で語る。

海を体感してほしい

風と波に恵まれた御前崎は、マリンスポーツの聖地として全国的にも知名度が高い。「訪れた港で出会った多くの人が御前崎のことを知っていた。しかし、市内のマリンスポーツ人口は減少しつつある。日本だけでなく世界の愛好家から愛される御前崎の海を地元の人にもっと知ってほしい」と植田さんは語る。

今年の夏は、地元御前崎の海でマリンスポーツに挑戦してみてもどうだろうか。